

Ⅲ 特に推進すべき4つの事項について

各市町教育委員会の取組



鶴田町文化祭（鶴田町読み聞かせフェア）

令和6年11月16日（土）鶴田町公民館

Ⅲ 特に推進すべき4つの事項について各市町教育委員会の取組

◇ 五所川原市教育委員会

学校・家庭・地域の協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 学校図書館整備事業

(1) 目的

小・中学校図書館が読書センター、学習・情報センターとして機能するための基盤を整え、また、学校図書館利用指導、授業への活用支援、その他相談受付等を行い、利用促進及び教職員の負担軽減を図る。

(2) 事業内容

①小学校1年生図書館利用・貸出促進事業「図書館1年生」の実施

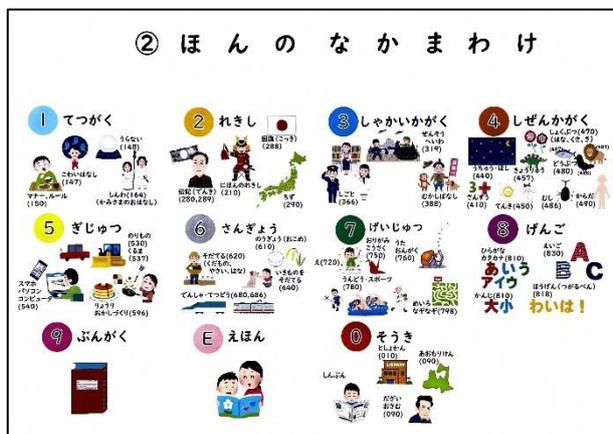
小学1年時から児童が自分の好きなことの本を自分で見つけることができたり、図書館・学校図書館の使い方や役割を知ったりすることで、中学・高校・大学・公共図書館のスムーズな利用につなげることができるようにする。また、先生方にとって、学校図書館や市立図書館の図書を活用した授業が身近になるために実施する。

- ・いずみ小学校 令和6年5月14日（火）
- ・南小学校 令和6年6月4日（火）
- ・栄小学校 令和6年6月21日（金）
- ・五所川原小学校 令和6年6月27日（木）
- ・中央小学校 令和6年7月2日（火）
- ・金木小学校 令和6年7月3日（水）
- ・市浦小学校 令和6年7月4日（木）
- ・松島小学校 令和6年7月9日（火）

●授業の様子



●配布資料「ほんのなかまわけ」



●「図書館1年生」指導案

いずみ小学校図書館1年生指導案

日時:令和6年5月14日(火)10:30~11:15(45分)

対象:1年生 16名

場所:図書室

指導者:高山直美(五所川原市立図書館司書)

1 本時の指導

(1) 本時のねらい

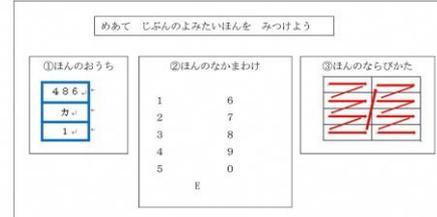
図書館の本の分類・排架について知ること、自分の読みたい本がどの分類にあるか探することができるようにする。(知識・技能)

(2) 展開

段階	学習活動	留意点
導入 5分	1 自己紹介を聞く。 2 学校図書館・市立図書館の役割について知る。 3 自分の好きなもの、興味のあることを発表する。児童2人に発表してもらう。 4 めあてを確認する。 「じぶんのよみたいほんを みつけよう。」	・毎月学校図書館支援で訪問していることを伝える。(学校図書館について授業の中では「図書室」と表現する。) ・学校図書館と市立図書館の蔵書冊数を紹介するため、クイズを出す。 第1問 図書室の本は何冊くらい? ①500冊 ②5000冊 ③50000冊 第2問 図書館の本はそれより多い?少ない? ・金木と市浦に分館があることを伝える。 ・読みもの以外にも、自分の好きなもの、興味のあることについての本があることを伝え、読物だけが読書をするのではないことを気づかせる。
展開 (1) 10分	5 学校図書館・市立図書館の本は1冊ずつ分類されて排架されていることを知る。 ①ほんのおうち 「ラベル」を見と、どこにある本なのかわかる。 ②ほんのなまわけ ラベル1段目の数字の意味を知る。 ③ほんのならばかた ラベルの1段目の数字順→2段目の五十音順→3段目の数字順に、本棚に左から右へ並んでいることを知る。	・たくさんの本があっても本を見つけやすくなるため、図書室・図書館の本には3つのきまりがあることを教える。 ①「ほんのおうち」「ラベル」の意味を教える。 ・授業開始前に図書室の本を机に置いておく。本の背を見せ、ラベルがあることを伝える。 ②ラベル1段目にある3桁の数字(日本十進分類法)について説明する。 ③本の並び方について説明する。
展開 (2) 20分	6 仲間分けクイズに挑戦する。 図書館の本を見て、どの分類になるか考え、発表する。	・0~8類の本を3冊ずつ取りに来てもらう。 ・ほんのなまわけの用紙を配布する。 ・どの分類に仲間分けされるか考えるよう伝える。 ・考えたら、目隠しテープをはがし、自分で答え合

1冊選び、「この本は、〇の仲間です。」と発表する。	わせをしてもらう。 ・導入で聞いた好きなものが、どの分類になるかを伝える。
7 申込書、貸出券の話聞く。 8 感想があれば発表する。	・立派なデザインを1つ選び貸出券を作ると本を借りられること、保護者の方へのお手紙を渡すことを伝える。

2 板書計画



授業開始前に黒板に貼ります。

3 学校側における準備物

・黒板またはホワイトボード(図書室にある場合は不要)

4 図書館の準備物

・学校図書館と市立図書館の蔵書冊数が視覚的にわかるようにしたもの
・0~8類の図書館の本(分類には目隠しテープを貼ります)

②小学校6年生国語「公共図書館を活用しよう」学校・図書館共同での授業実施 五所川原小学校

令和6年10月17日(木)

小学校において、タブレットで市立図書館貸出券の電子申請、資料検索方法の説明を行った。後日、先生の指導で資料オンライン予約を実施した。

令和6年11月6日(水)

図書館において、オンライン予約資料のセルフ貸出、教科書に沿う内容のバリアフリー関連機器やサービスの紹介を実施した。

●タブレットでの貸出券電子申請



●図書館ホームページからの資料検索方法の説明



●学校での読書活動を市立図書館で紹介（押し本POP）



③移動図書館の実施

たくさんの中から好きな本を見つける楽しさを体験してもらえるように、学校に本を持って行き実施した。

五所川原小学校 令和6年7月9日(火)・10日(水)

令和6年12月11日(水)・12日(木)

三好小学校 令和6年7月17日(水)、令和6年12月20日(金)

松島小学校 令和6年7月18日(木)、令和6年12月20日(金)

●移動図書館 選んだ本を楽しそうに読む児童のみなさん



(3) 成果及び課題

小・中学校へ司書訪問支援を継続する中で、学校と図書館共同で読書及び図書館利用推進を行う関係が構築され、こどもたちにとって読書や図書館利用が楽しい体験となる様々な活動に結びついた。学校司書配置や予算面など課題もあるが、今後も読書及び図書館利用推進を効果的・効率的に進めるために、学校と力を合わせて着実にできることから実行していくことが大切である。

家庭教育支援の充実

1 事業名 子どもフェスティバル事業

(1) 目的

スクリーンタイムの見直し啓発や、こどもたちの体験活動の場の提供、保護者等参加者同士のつながりを深めるとともに参加者同士がコミュニケーションをとり、地域とのつながりを深めることを目的とする。

(2) 事業内容

茶道、生け花、囲碁体験、軽スポーツ、段ボールだるま落とし、おはなし会、防災スイーツづくりなど、様々なコーナーを体験できる。

(3) 成果及び課題

人気のコーナーは定員を超えるほどだった。スタンプラリー形式にしたことで、多くのコーナーを体験できた。また、囲碁コーナーでは、高齢者の人と触れ合う機会になり良かったという感想をいただいた。

開始時刻が重なるコーナーがあり、行きたいコーナーをうまく回れない状況があった。スクリーンタイムの見直し啓発のためのポスター掲示をしたが、その効果について、読んだ後の感想をアンケート等で回答をいただければ良かったと思った。



◇ つがる市教育委員会

学校・家庭・地域の協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 「つがる市型」地域学校協働活動 第1回情報交換会

(1) 目的

地域学校協働活動推進の役割について理解してもらう。

(2) 事業内容

情報交換及び取組事例紹介と計画（案）について

(3) 成果及び課題

新規推進員の方への説明や継続推進員の取組事例を聞き、推進員の役割について理解することができた。

2 事業名 「つがる市型」地域学校協働活動 担当教員説明会

(1) 目的

地域学校協働活動推進員担当教員に地域学校協働活動を理解してもらう。

(2) 事業内容

地域学校協働活動推進員と担当教員の役割についての説明や校内への周知について

(3) 成果及び課題

新任教員や担当教員の方に、地域学校協働活動の趣旨や役割について理解してもらうことができた。

3 事業名 つがる市学校運営協議会委員及びつがる市地域学校協働活動推進員研修会

(1) 目的

学校運営協議会の役割を理解し、地域から協力を得て活動していくための方法について学ぶことを目的とする。

(2) 事業内容

講義・演習 講師 県生涯学習課

統括的な役割を担う地域学校協働活動
推進員 工藤 知久子 氏
指導主事 成田 邦彦 氏

(3) 成果及び課題

学校運営協議会委員と推進委員の顔合わせができ、コミュニケーションがとれた。また、学校ごとの演習では、沢山の意見が出され、地域にある学校を良くしていきたいという思いが感じられる発表があり、共通理解を図ることができた。



4 事業名 「つがる市型」地域学校協働活動 第2回情報交換会

(1) 目的

新規ボランティア登録数の伸び悩みや、活動内容の恒常化が課題となってきたため、西北五管内の学校における活動内容及びボランティア募集のアイデア等について学び、今後の活動について考える。

(2) 事業内容

講師 鶴田小学校地域学校推進員 沢田 真由美 氏

(3) 成果及び課題

市内小・中学校が一堂に集まり情報交換することができた。他校の地域学校協働活動推進員の活動内容を聞き、得たアイデアを取組に活かすことができた。

家庭教育支援の充実

1 事業名 つながる！つがる笑顔まつり 2024

(1) 目的

子育て世代が中心となり、企画運営を行う多世代交流イベントを通して、ひととひと、もの、こと、地域がつながる事を目指す。

(2) 事業内容

体験・レッスン、ステージ発表、展示、相談コーナー、販売ブース等

(3) 成果及び課題

2014年より定期的に行われている。毎年、交流が深まり、参加者も増えつつある。子育て相談コーナーでは、専門知識のある方対応しており、幅広く受入可能となっている。
(代表：つがる市家庭教育支援チーム mama san Angels 工藤 美穂 氏)



マルシェ & キッチンカーのべ50ブース!

第10回 つながる！ つがる笑顔まつり 2024

つがる市生涯学習交流センター松の館

11月3日(日) 4日(月)

10:00~16:00

ステージ		体験&レッスン	
<p>3日 10:10 女舞姫 (ゆきま) 『よきこい演舞』</p> <p>3日 13:00 青森フラオハナ & エリア弘前 『フラショー』</p> <p>4日 14:00 つがる市手話サークル 『カッコウ』 『手話コース』</p>	<p>4日 10:30 煙堂 (ゆいおん) 『津軽三味線』</p> <p>4日 12:00 龍樹 (りゅうじゅ) 『ワクレレ弾き語り』</p> <p>4日 13:00 『サーナ 演奏会』</p>	<p>〈両日〉 つがるおもちゃ病院 とりかえっこショップ 縄文ふれあい展示 エステセラピスト体験 〈3日〉 フラレッスン ビジントレーニング 〈4日〉 津軽三味線</p>	

【NPO法人】ツル/匠屋 介護サービス協会 様々な地域活動団体に対する奨励金を活用させていただいております！

つがる市家庭教育支援チーム mama san Angels
「みんなで子育て、地域で子育て、子育てしやうぞくぞく」
一人一人のまろく(お顔)笑顔が、新しい出会いや体験などのきっかけづくりの種、たくさんのおと、ものとなつがるまつりを行っています！

(主催) つがる市家庭教育支援チーム mama san Angels
(共催) つがる市教育委員会 (協力) ミライク学園 (詳しくはこちら)

ひとひと、もの、こと、地域がつながる

<p>フラレッスン</p> <p>【日時】3日 10:30~11:30 【会場】会議室B 【対象】幼児~小学生、大人 ★親子、パパ大歓迎! 【参加費】一人500円(予約優先) ★親子2人まで1000円 【オプション】 希望者は午後1時にステージ発表に参加できます(衣装も貸します!) 【予約】お問い合わせ 青森フラオハナ&エリア弘前 09058333194 (菅田)</p>	<p>津軽三味線体験</p> <p>【日時】4日 11:30~ 【会場】研修室 【対象】幼児~小学生、大人 【体験料】1回20分 500円 ★三味線着払いしあり。 【予約】お問い合わせ FEEL-SHAMISEN project Instagram @feelshamisen 津軽三味線ユニット 燈音 Instagram @t.r.raionsub</p>	<p>トータルビジョン トレーニング体験</p> <p>【日時】4日 10:00~16:00 【会場】和室 【対象】幼児~小学生 【体験料】500円 目のチェック 1000円(希望者) ★若い・いるうちに自分の体の弱い方が変わりゆく様々な能力がアップします! 【予約】お問い合わせ トータルビジョントレーニング協会 090-8921-4851(千葉)</p>
<p>つがるおもちゃ病院</p> <p>【日時】3日4日 10:00~13:00 【会場】子供交流センター</p> <p>☆こわれたおもちゃを直しませんか? おもちゃドクターがあなたの大切なおもちゃを治療します!</p> <p>【お問い合わせ】 つがるおもちゃ病院事務局 (つがる市社会福祉協議会内) 0173-42-4660(長谷川)</p>	<p>とりかえっこショップ</p> <p>【日時】3日4日 10:00~16:00 【会場】子供交流センター</p> <p>☆必要なものを必要のないものとへ、使わなくなったものをとりかえっこしませんか?</p> <p>【お問い合わせ】 つがる市家庭教育支援チーム mama_sun_angels</p>	<p>縄文展示</p> <p>【日時】3日4日 10:00~16:00 【会場】視聴覚室</p> <p>☆つがる市にあるたくさん縄文遺跡の紹介、縄文に触れる、感じる、思うことができます。</p> <p>【協力】 つがる市教育委員会 文化財課</p>
<p>エステセラピスト体験</p> <p>【日時】3日4日 10:00~16:00 【会場】子供交流センター</p> <p>☆専用のユニフォームを着て、パパママにハンドケア。 お仕事を体験してみませんか?</p> <p>【お問い合わせ】 MENARDフェイスサルロン Instagram @menard_hitotsuya</p>	<p>はっぴーすまいるラボ</p> <p>☆発達障害啓発活動を行っています。それぞれの個性を尊重し、支えあつた社会に「みんながハッピーな毎日」をみんなで作っていきましょう!</p> <p>がっばど</p> <p>☆毎月第1日曜日にしゅんちゃん温泉で行っている多世代交流サロンです。大広間でんびりゆったりすごしていただけます。 お気軽にお立ち寄りください。</p>	<p>じゃわめき隊 (五所川原第一高等学校)</p> <p>☆「地域を学びの場に!」 地域活動やボランティアなどを活発に行っています!</p> <p>ミライク学園</p> <p>☆発達障害支援、相談等サービスなどを行っています。 フリースクール開校に向けて準備中!</p>

♡マルシェ♡
Re : (mark) able/Ciel-シエル-/ぼんとしる/ギャラリー花/Ange/養系/和み/
PRINCESS/はり子xはり子/handmade shop MIO/Soara's smile/MABI/
SOKICHIタロット/juju's tendresse/くらーばー/優&チヨコよこ/ことなりのイナバ
(3日のみ) ShiiのJewel/花結び
(4日のみ) atelier3色クローバー/そらいろ雑貨店/-fleur-/Wagamama/
キラキラshop/fu-a nature/wake arena
♡フード&キッチン♡
多彩屋/スイーツキッチン 761/Pinguo/Korean food HAENIM/FREE
(3日のみ) しじみ屋さんの清漁
(4日のみ) アウル∞珈琲/DONBURI/メイプルベッジ/ママちゃんカフェ/Coffee いまい

◇ 鱒ヶ沢町教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 ふるさと学習事業

(1) 目的

町が示す5つの柱「世界自然遺産白神山地」「日本遺産北前船文化」「津軽藩発祥の地」「町の営み」「どんな自分になりたいか」を基に、小中一貫した鱒ヶ沢町らしい学習カリキュラムを構築し、ふるさと教育を進める。



(2) 事業内容

年3回、学期ごとに検討会議を開催し、実施状況や課題等の情報共有を図った。管下小・中学校の児童生徒が郷土カルタを通して、町の歴史、文化等について学習したり、町探検や自然体験を通じて、町の環境、産業、経済を学習したりした。また、ふるさと学習実践事例集を作成した。

(3) 成果及び課題

管下小・中学校が一貫した学習カリキュラムに取り組むことで、地域で暮らす多様な人たちとの交流を通して、地域と関わる意義や価値に気づき、ふるさとへの愛着や誇りをもてる児童生徒が育っている。

2 事業名 はまなす学級開設事業

(1) 目的

管下在住の概ね60歳以上を対象とした学習会を開催し、生涯学習等の推進を図る。

(2) 事業内容

年5～6回の学習会を実施するほか、地域の要望に応じ、「高齢者ふれあいの場」へ訪問して行う出張ミニはまなす学級を通して、生涯学習・スポーツの周知普及を行った。



(3) 成果及び課題

前青森県知事を講師に迎えた学習会や、「高齢者ふれあいの場」に出向いてボッチャやモルックなどの軽スポーツ体験など、幅広い学習機会を高齢者に提供することができた。課題としては、運営委員会の委員が固定化しており、委員の高齢化、学習内容の偏りが見られる。

学校・家庭・地域の協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 コミュニティ・スクール推進事業

(1) 目的

地域とともにある学校づくりを目指し、学校と地域社会が連携・協働しながら新しい時代に求められる資質・能力を子どもたちに身に付けさせる。



(2) 事業内容

学校運営協議会（年3回）で、事業計画、事業報告、学校運営方針の審議と承認等を行った。また、委員研修会や学校訪問の実施、「地域の文化や祭りを伝承するために、学校と家庭・地域はどのような協力をしていけばよいか」をテーマにCSタウンミーティングを開催した。

(3) 成果及び課題

タウンミーティングでは、地域の様々な立場から積極的な意見が出され、地域の文化や祭りの伝承などを深く考えるよい機会となった。課題としては、コミュニティ・スクールについて住民の認知度は高くなってきているが、タウンミーティングに参加する住民が少ない状況であり、更なる工夫が必要である。

2 事業名 地域学校協働活動推進事業

(1) 目的

管下小・中学校へ地域学校協働活動推進員を配置し、地域と学校が相互パートナーとして連携・協働を行う様々な活動の推進を図る。



(2) 事業内容

年2回、地域学校協働活動推進員協議会を開催し、地域学校協働活動推進員の行う活動や教育課題等について、管下小・中学校の教頭を加えて情報交換を行った。学校と地域のつながりをより広めるため、学校支援ボランティアの活動についてCS通信や町広報誌で住民に向けて周知した。

(3) 成果及び課題

地域学校協働活動推進員の声掛けで学校支援ボランティアが集まり、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えている。また、ボランティアの中では、教育活動を支援していることが生きがいとなり、地域の活性化に繋がっている。課題については、学校支援ボランティアの固定化と高齢化による担い手を確保するのに苦慮している状況である。

家庭教育支援の充実

1 事業名 キッズ・親子育成事業

(1) 目的

将来を担う町のこどもたちの育成を目指す事業を展開する。また、親世代に家庭教育や地域づくりに関心をもってもらうため、親子で楽しめる事業を展開する。



(2) 事業内容

親子ファーマー体験、深浦町、野辺地町の3町連携によるキッズ歴史探検ツアー、小中学生英会話教室、民間団体と連携したなぞときパワースポットツアーなどを開催した。

(3) 成果及び課題

体験型事業及び教養文化に親子で参加できる事業を展開したことで、親世代が家庭教育や地域づくりに興味をもち、積極的に参加する機運の醸成が図られた。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 みんなで子育てフェスティバル（家庭教育推進事業から）

(1) 目的

ほけん福祉課こども家庭班、町子育て支援センター等の子育て支援に関わる団体と連携、また協働で子育て世代の親子が気軽に集い、ともに学び、楽しい時間を過ごせる場を提供し、ネットワークの強化を図る。



(2) 事業内容

日本海拠点館の会場内に、アート作品の作成や読み聞かせ、軽スポーツ等が体験できるブースを設置し、子育て親子が気軽に交流できる場を提供した。

(3) 成果及び課題

他課や子育て団体と初めて協働で開催したイベントだったため、少人数の来場者を見込んでいたが、当日は親子連れやこどもたち150名ほどが会場を訪れ賑わっていた。次年度以降の継続支援や開催回数の増についても意見がまとまり、関係機関と連携、強化が図られた。

◇ 深浦町教育委員会

地域人財の発掘・育成	
1	事業名 子ども司書養成講座
(1)	目的 こどもに読書の輪を広げ、地域の読書リーダーを養成するため
(2)	事業内容 本の貸出や返却、POP作成などの司書業務体験
(3)	成果及び課題 読書することの楽しさを知り、司書業務に関心をもってもらうことができた。

学校・家庭・地域の協働（コミュニティ・スクールを含む）	
1	事業名 深浦町人財バンク活用事業
(1)	目的 自身の興味や関心のあるものを学びたい人が「いつでも・どこでも・だれでも・何でも」学習するため
(2)	事業内容 人財バンクに登録している講師を利用希望者に派遣
(3)	成果及び課題 近年は主に小学校のクラブ活動で活用されており、身近な講師による活動で楽しく学習できた。講師の人財確保が課題となっている。

家庭教育支援の充実	
1	事業名 軽スポーツフェスティバル事業
(1)	目的 軽スポーツを体験する機会を設け、スポーツ活動の推進及び普及に努め、体力・運動能力調査を実施することにより、町民が自己の健康管理に関心をもつため
(2)	事業内容 例年スポーツ庁が実施している体力・運動能力調査を成年・高齢者を対象に測定し、軽スポーツのモルックとラダーゲッターを体験
(3)	成果及び課題 親子で参加することにより、家族間での健康管理に関心を深めることができ、軽スポーツにより世代間での交流が図られた。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進	
1	事業名 楽しく運動能力 up!ふかうらスポーツ教室
(1)	目的 生涯にわたってスポーツに親しむこどもの育成を図るため
(2)	事業内容 弘前大学教育学部保健体育講座との共催事業により、陸上やバドミントン競技の基礎的な体の動かし方や専門的な指導を体験
(3)	成果及び課題 専門的な指導を受けることができ、普段の部活動等とは異なる有意義な経験が得られ、技術力の向上が期待される。

◇ 板柳町教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 [ふるさと町民講座] 金魚ねぶたづくり

(1) 目的

生涯学習の推進と個人の余暇活動の充実を図るため、町民に対して様々な講座、学習機会を提供し、郷土の歴史と文化に誇りをもった人間性豊かな町民の育成を図る。

(2) 事業内容

夏の風物詩、金魚ねぶたを作る。

(3) 成果及び課題

アンケート結果では、「難しかったけど完成できてうれしかった。」「金魚ねぶたの作り方を知ることが出来て良かった。」などの回答があり、好評だった。

学校・家庭・地域の協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 地域学校協働活動本部事業

(1) 目的

地域と学校をつなぐパイプ役として、地域学校協働活動推進員を管下小・中学校へ1名ずつ配置することで、地域の人々が学校と連携・協働しながら、地域全体でこどもの成長を支え、地域を創生する。

(2) 事業内容

学校からの要望に応じて、地域の様々な方々の参画を得て、授業の補助、自学自習等の支援、部活動の指導、図書の整理や読み聞かせ、花壇や樹木の整備等の校内の環境整備、登下校時におけるこどもの安全確保に係る活動、学校行事の運営支援活動を実施している。

(3) 成果及び課題

学校のニーズに対応したボランティアを探し活動しているが、地域ボランティアの高齢化により後継者を探すのが難しい。

家庭教育支援の充実

1 事業名 絵本の中のお菓子づくり

(1) 目的

お菓子にまつわる絵本の読み聞かせをすることで、絵本に興味をもってもらい、お菓子作りを通して、親子の時間を有意義に過ごしてもらおう。

(2) 事業内容

お菓子にまつわる絵本の読み聞かせ後、親子でクッキー作りをする。

(3) 成果及び課題

親子で絵本の読み聞かせとクッキー作りを楽しんでもらうことができた。クッキー作りでは、同じチームになった親子同士で会話をしながら楽しく作業する様子も見られ、町民のコミュニケーションの場にもなったと思う。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 子ども会 夏のわくわく体験・冬のわくわく体験

(1) 目的

こどもたちの健全育成とリーダー性の育成、体験学習を通じ、各町内にある子ども会の連携・協力を図ることを目的とする。

(2) 事業内容

(夏) 駒っこランド(十和田市)において、乗馬・引き馬体験を実施した。

その他、馬にエサをあげたり、馬の文化資料館にて馬具など見学したり、人と馬の関わりについての歴史を学んだ。

(冬) RAT WALL(ラットウォール:弘前市)において、ボルダリング体験を実施した。

(3) 成果及び課題

(夏) アンケート結果では、参加者は満足との回答が多かった。当日は気温が高く、避暑できる場所が限られており、対策が必要と感じた。

(冬) こどもも大人も楽しむことができた。「難しかったけど楽しかった。」「冬でも体を動かして良かった。」などの感想があり、高評価だった。

◇ 鶴田町教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 町民教養講座

(1) 目的

地域住民の学習ニーズを把握するとともに、自主的に学習できるように学習機会の提供に努める。

(2) 事業内容

6月～12月	各 15～20 回程度
アート教室	延べ 139 人
ヨガ教室	延べ 310 人
三味線教室	延べ 263 人
料理教室	延べ 33 人
スマホ教室	延べ 78 人
ダンス教室	延べ 25 人
陶芸教室	延べ 263 人
英会話教室	延べ 298 人

(3) 成果及び課題

新規講座（ダンス教室）を加え、様々な学習機会を提供することができた。前年度より行われたスマホ教室は昨年度同様、好評であった。また、料理教室は地元の料理店に講師を依頼している。次年度以降も学習ニーズに鑑み、周辺地域・講師等の条件を考慮して実施したい。

課題としては、チラシ、HP の活用等によって、より多くの住民に興味をもってもらい、参加してくれるような周知の工夫の必要性がある。

2 事業名 子どもの祭典

(1) 目的

子ども会の親睦を図るとともに、この祭典での経験を基に、これからの子ども会活動に活かしていくことを目的とする。

(2) 事業内容

こどもの文化祭として、町子ども会会員はもとより、町のこどもたちが会場に集い、子ども会の活動の紹介や出店、さまざまな遊びなどを体験した。

(3) 成果及び課題

11月3日(文化の日)に鶴田町社会福祉協議会「鶴遊館」で行われた。当日は130人ほどのこどもたちが参加した。町子ども会スタッフに、あらゆる面で協力していただいている。

再開して2年目の開催となったが、多くの小学生が参加し盛大に行われた。単位子ども会が年々減少傾向にあるものの、中学生リーダーの育成は順調に行われており、今後の活躍が期待される。

学校・家庭・地域の協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 鶴田町地域学校協働活動

(1) 目的

地域と学校が連携・協働して、地域全体で未来を担うこどもたちの成長を支えていく。

(2) 事業内容

ボランティア活動等実施のため、地域住民や関係団体との連絡調整のほか、推進員を中心に図書整理、家庭科授業の補助、野菜づくり、獅子舞継承などを行っている。推進員2名が鶴田小学校に常勤している。

(3) 成果及び課題

ある程度活動は定着しつつあるので、さらに内容を充実させたい。また、中学校でも同等の活動が実施できるよう協議していく。

2 事業名 鶴田町学校運営協議会

(1) 目的

学校と保護者及び地域住民等との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組む。

(2) 事業内容

令和5年8月2日に設立し、委員19名でスタートした。教育委員会及び校長の権限と責任のもと、保護者及び地域住民等の学校運営への参画並びに支援・協力を促進する。

(3) 成果及び課題

委員はもとより教職員、地域、保護者にもコミュニティ・スクールの仕組みや意義などはあまり知られていないと思われることから、町広報やHP、チラシなどにより周知したり研修会を開いたりしながら、理解を深め事業の推進に努める。

3 事業名 鶴田町放課後子どもプラン

(1) 目的

放課後子ども教室推進事業及び放課後児童健全育成事業の一体的かつ連携して実施する総合的な放課後対策事業であり、保護者が就労等で下校時間にはいない放課後児童に、適切な遊びや生活の場を与え、健全な育成を図る。

(2) 事業内容

放課後児童の安全で健やかな居場所を設け、様々な体験活動、交流事業等の取組を行う。

登録人数	1年生	65人		
	2年生	64人		
	3年生	63人		
	4年生	46人		
	5年生	39人		
	6年生	27人	計	304人

(3) 成果及び課題

昨年は学年別で教室を分けていたが、指導員の負担に偏りが見られたことから、今年度は1～4年生混合のクラスを6つと、5～6年生混合のクラスを2つの計8クラスで構成した。他にも各教室間のしきりを取り外しオープンスペースとし、こどもたちが自由に動き回れるよう空間を広くするなど工夫をした。指導員たちは、最初戸惑いがあったものの、「全員で全員を見守る！」といった意識改革にもつながり、勤務シフトの調整も安易になるなどのメリットの方が大きいと感じている。今後もいろいろ試行しながら実施していく。

家庭教育支援の充実

事業名 サンシャインスクール利用家庭に対する支援

(1) 目的

放課後子どもプラン推進事業「サンシャインスクール」を利用する児童の健全育成を支援する。

(2) 事業内容

サンシャインスクールを利用する児童の保護者が、子育て等に関する相談会を随時実施している。

(3) 成果及び課題

必要に応じて、教職員の力を借りるなどして学校とも連携しながら問題解決に向け相談会を実施しているが、今後は町に新たにできた児童発達支援・放課後等デイサービス「ミライク学園」とも協力関係を築いていく。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 鶴田町町民文化祭

(1) 目的

地域住民が学習成果や能力を生かし、主体的にボランティア活動等の社会参加活動に取り組めるよう、学習機会を提供する。

(2) 事業内容

11月16日(土)・17日(日)、鶴田町公民館、鶴田町体育センター、武徳館にて、芸能発表会、書道、写真等の作品展示、フリーマーケット等を実施した。

(3) 成果及び課題

今年の文化祭は公民館、体育センターの他に武徳館も会場とし、新たにフリーマーケット会場を設けたところ、16日2,618人、17日2,333人の入場者となり、二日間ともたくさんの人に来てもらうことができた。

巡回ワゴン車を町内全域で運行したが、乗車率が悪いので、次年度は住民の要望や乗り合いにより運行を試みたい。さらに、イベントの多様性や参加の活性化を図るために、新しいアイデアやプログラムの導入及び地域の若者や異なる世代の参加を促進するための工夫が必要と考える。

2 事業名 鶴田町読み聞かせフェア

(1) 目的

こどもの読書活動推進と実践者の研修及び交流を図る。

(2) 事業内容

11月16日(土)、公民館にて「すてっぷおはなしシアターぱびふぺぼん」による読み聞かせ会を実施した。

(3) 成果及び課題

昨年度は、別日程で国際交流会館にて行われたが、今年度は文化祭時に併せて行うことにより、全体の集客、文化祭プログラムの活性に一役買うことに繋がったと思う。

「ぱびふぺぼん」は、保育園・小学校等で常時活動している団体であるため、子どもたちに対する接し方も慣れ、親しみやすさがあった。また、公演中も楽器を鳴らしたり、飛び出す絵本を使用したりと工夫があり、子どもたちも楽しめたと感じる。

客席をゴザ席にし、講師との距離も近く、話も伝わりやすかったと思うが基本、床の上なので、負担軽減のため、イスや座布団等の対策が必要だと思う。

次年度に向けては、概ね好評であることから、関係団体と交渉していく。

◇ 中泊町教育委員会

地域人財の発掘・育成

1 事業名 各種公民館教室

(1) 目的

地域住民の学びと交流を促進し、地域活性化やスキル向上を目指す場を提供する。

(2) 事業内容

公民館教室（生け花、エクササイズ、社交ダンス、ヨガ、陶芸ほか）

(3) 成果及び課題

各種教室の講師に地域人財を発掘し積極的な活用を努めている。具体的には、これまで町外在住の方に講師を依頼していたヨガ教室について、今年度から中泊町に在住の方に講師を依頼した。講師の変更に伴って新規受講者が増加し、さらには若返りが図られた。



学校・家庭・地域の協働（コミュニティ・スクールを含む）

1 事業名 学校運営協議会（こどもり学園）

(1) 目的

学校と保護者及び地域住民等が一体となって学校運営の改善や児童生徒の健全育成に取り組む。

(2) 事業内容

年2回の会議を開催

(3) 成果及び課題

会議では学校経営・運営方針を協議し、授業風景の視察を行った。協議会の委員には、住民との交流や防災拠点としての機能を持ち合わせた「地域の中心となる学校」であることの再認識が図られ、それに向けた学校経営・運営方針の内容を承認した。

2 事業名 地域学校協働活動推進事業

(1) 目的

地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支え、地域を創生する地域学校協働活動を推進する。

(2) 事業内容

町立学校全校に地域学校協働活動推進員（コーディネーター）を設置

(3) 成果及び課題

元教員を選任した学校については、学校との繋がりが強化され教職員の負担軽減となり効果的な学校活動の推進が図られた。また、地域の人財に精通した推進員を配置した学校は、多くの地域住民が参画し地域との繋がりが強化された。

課題としては、推進員によって活動の差があることから、県等が実施する研修に推進員を参加させ、資質向上を図る必要がある。

3 事業名 放課後子ども教室

(1) 目的

放課後等にこどもが安心して活動できる場の確保と、次世代を担う児童の健全育成を図る。

(2) 事業内容

町内4小学校、博物館、公民館に放課後子ども教室を展開

(3) 成果及び課題

地域住民を講師として招くことで、児童と地域住民の交流が図られた。今後は地域に特化した体験を多く取り入れ、地域に対する興味・関心を醸成し郷土愛を育てていきたい。



4 事業名 町民文化祭（中里会場、小泊会場）

(1) 目的

「みんなの文化・健康」をテーマに地域住民の交流機会を創出し、町民の生涯学習の成果と郷土芸能等の伝統文化の継承、健康に対する理解と認識を深める。

(2) 事業内容

- ・10月20日（日）小泊会場「こどもり学園」
- ・10月27日（日）中里会場「中泊町総合文化センターパルナス」

(3) 成果及び課題

小泊会場では、昨年度に引き続き「こどもり学園」を会場に学園祭と同時開催とした。地域住民が学校を訪れることで「地域の中心となる学校」として改めて認識する機会となった。普段は児童生徒の声で賑やかな学園が大人の笑い声も響き渡り、多世代にわたる地域コミュニティの形成が図られた。

中里会場は、これまで2日間であったものを1日の開催に変更した。芸能発表等内容を濃いものとし、1日でも十分満足のいく内容であった。



家庭教育支援の充実

1 事業名 リフレッシュ講座

(1) 目的

子育て中の保護者の疲れを軽減するリラクゼーションや、子育てに関する教養を養い保護者の子育てしやすい環境をつくる。

(2) 事業内容

アロマオイルのハンドクリーム作りの体験とヨガ体験を実施

(3) 成果及び課題

子育て支援センターで実施することにより、子どもを一時的に預け、自らのリフレッシュに専念できる点では好評であるが、年々参加者が減少していることから、内容の見直しと周知方法を工夫する。



2 事業名 成人講座

(1) 目的

家庭教育、地域の教育力の向上を図る。

(2) 事業内容

児童・生徒の保護者を対象とした講演会等を実施

(3) 成果及び課題

主に思春期の子どもに対するアプローチの仕方をテーマにすることが多く、保護者の家庭教育に関する教養が深まった。課題としては、実施校が例年同じであるため、町全体的な家庭教育支援が充実しているとは言い難い。町内全ての学校で実施できるようアプローチが必要である。

関係機関・団体等によるネットワークづくりの推進

1 事業名 社会教育担当者協議会

(1) 目的

生涯学習・社会教育関係職員が地域づくりのための手法を具体的にイメージできるよう、より実践的に学ぶ機会を提供する。

(2) 事業内容

【研修会】

講演 「感謝と挑戦～地域おこし協力隊というチャンス～」

講師 深浦町地域おこし協力隊員 浪岡 敏勇 氏

講演 「出番です！子どもまんなか地域づくり、子育て支援」

講師 認定 NPO 法人びーのびーの理事長 奥山 千鶴 氏

【研究協議会】

・社会教育部会 「地域学校協働活動・CS への教育委員会の伴走支援について」

・社会体育部会 「国スポに向けての準備と課題について」

【軽スポーツ実技講習会】

種目 ユニカール 講師 板柳町教育委員会 工藤 孝道 氏

(3) 成果及び課題

当協議会に参加することで職員のスキルアップとなり、また、他市町の生涯学習・社会教育関係職員が一堂に会すことから、他自治体の動向や参考事例等の情報交換の場としても重要である。

